

突然失礼致す。

河野も町内のお仕事は甚だ様に入ります。

此の度は、深浦の歴史と文化財

貴重品の書と載せました。有難うございました。

大史の会にて旧跡と方を歩きました。

地素は「用浦町誌」調査して書かれた人は、

用浦小学校長の田中作造氏、菊の浦御小学校長の

高橋真太氏です。田中作造氏の長男、

田中易男(鑑久保小学校長)と主人正雄と

は同級生で幼馴染で、その上、叔の上司

でした。お宅へ伺い、厚平と見せて戴きました。

祖父田中易金氏は市役所(実務)の方か

細か、資料はどちらからの入手に成ります。

深浦。事柄は、この方が又歴史方面から

(次が横領)

横須賀兵衛守府より大至急沼田路と作れとの

通達。軍の工場の仕事も忙しかたが、

真、現地へ、天神橋の左下は葎ヶ浦と云ふ沼地

に、此と云ふ、理ゆゑ、海岸に横橋に伺へ

一直線。甚昔に甚昔と云ふ。河を作り上

り、軍に報告出来たと云ふ事。

然し、期行一丸沼田路も遂に飛ぶ事、案上
終りす。

此の時の甚昔に問題かたの事。

途中途作らば時、軍より通達不取止めと。

那水は軍の資金不足とのこと、後監督の

父は平水を知り、以後は、冬不の支拂目すと。

仕事は続けす。姉は毎日銀行へ行へ

支拂の小銭に更えて世に、大業に云と語

べりす。冬不。事務社の窓下の支拂

No 3

に大勢の作業員が並び、近所の方には迷惑に、と
申し付けを思ひます。もう一つの問題は、最後の段

階の天神山の禊が邪魔になり、知り所亭に
なり、保在所、沢山の土骨が、土骨の穴が

二つ、一つには本物のけり、二つ首無し、遺体、もう一つ

には首なし(鬘の毛が二つ) 髪が二つ隣

埋め直してと知り、二つ、又は二つ、二つは気の

毒、二、東軒の焼場、二、一所、二、

二、河原にも思生場所無し。女骨が出始め

た時、二、読経として続け、二、二、二、来子、二、

母、建、宋、道、陽、主、石、渡、智、徳、師、に、預、て、世、々、之、事、に、

供、養、主、は、各、本、に、と、り、二、又、か、言、る、二、主、人、正、確

に、原、塚、死、の、主、人、の、後、私、言、言、々、二、三、十、年、供、養

した。二、お、骨、と、一、所、に、^{二、二、}遺、物、は、後、の、研、究、

No. 4

為と箱に包み持ち帰り、権現堂中の小中、高校
へと回して下さる際、浦御小へ持参された。
新家へ帰るとその日、三十年後でいらした。
その時初めて、細かに事と母と、婦に南が立がたいらした。
之は博物館へと行り、早速、田中島勇先生にお話
いらして、教育委員会へ行り、そして、博物館へ
と知子水母研究会の方へ、堺市の本にもありま
す。杉原元先生と、宮沢先生（正統舟庫松）お二人と、
博物館の主任、松岡研究員と三人で翌日来た事だ。
「戦前中の事だ、捨てるからと思つたのは、保存する
には、有難い」と喜んで下さり言いらした。
早速、冬木登、甚きと、寄附と行り、博物館に、今も
あると思ひます。当時の写真と新聞切り抜き、
保存してあります。以上、尋足路は確かに
実在いらして、云々と思ひますか。？

No5

今も天神山の仰り山棚上は、白きり判り可。

遺物は、博物館にあり可。

滑走路は、果より通達不、各不登以下「滑可」と

分、一時村家の物と有り于一、^不殺神不、可

牛糞土上腐生せ、^後、^翌日軍へ出向可。

又、不登より滑走路は、軍へ献上致し可。

と有り、^終戦後、^并殺神へ滑走路跡に

市言伝完の立方並ぶ可。

天神山の上見度には、又、其考が、思ふ可。

古字は、智温火^後、智温^不提^可、^用南の

静丹亭へ、^不能、^一可、^一可。

長公と子と子りの間に、拙文、お解り頂の事、
下はうが、

年と學り、漸水も指に鞭打て漸くた。

漢字忘水、漢字脱字、音みま。

私に百と台と、此の事實は、今と与る不は、思。

厚存と臣に、臣象に、古語一勢一事一。

倉長を、は、亦、礼、申、上、下、と、不、也。

夫、礼、勢、事、也。

冬、不、學、子、100%

宏、標

追伸。

母の経

母は東京神田区水。此所へ来たのは

横須賀線へ横須賀駅へ駅裏通りから

舟下横須賀へ舟下深浦へ大正十年頃か

大正十二年六月に主人正雄誕生。九月に

関東大震災、幼兄三人連水、逃中此

所は七三歳に、無事東京へ解任した。

父は是以前より深浦は金野流の水、

何れ無かったか、急な。

石倉に土地を借りて、材木を集め、流下

を利用し、家を建てた。

当時の工務所下一化。